



深い学びのある授業を目指して

校長 須貝 克徳

延期となった先日の運動会には、平日にもかかわらず、多数の保護者の皆様からお越しいただき、子どもたちへ声援をいただき、ありがとうございます。無事に開催することができ、子どもたちの心に貴重な思い出を刻むことができたことは何よりです。子どもたちへの励ましや、体調管理等、支えていただいた保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

さて、全校が一丸となって取り組んだ運動会も終わり、今後は、学校生活の基本である学習に、より集中して取り組む絶好の時期となります。

河崎小学校では、「主体的に学び、考えを深める授業づくり」を研究主題とし、「めあてをもち、かかわりながら、学び合う子ども」の育成を目指しています。

子どもが主体的に「これを解決してみたい!」、「これができるようになりたい!」というめあてを持たせるにはどうするか、「みんなで考えたい」、「かかわって学びたい」という思いをどう醸成するか、そして、どのような過程で課題解決をしていけば、より深い学びにつながるのか等を考え、研修を進めています。

「深い学び」とは、例えば、次のようなことをイメージしています。

- 様々な教科特有の見方や考え方を使って、事柄を多面的、多角的に見る。
- 異なる事柄どうしを様々な観点から関連づけて捉える。
- 今まで学習してきたことを生かして、新しい事象にそれを結び付けて考える。
- 今までわからなかったりできなかったりしたことが、わかるようになったり、できるようになったりする。
- 自分や友達の学び方のよさや成長を自覚し、今後もそれを使って解決しようとする。

どの教科、どの内容の授業でも、このような学びをいつも実現させることは難しいです。指導内容の特性や、指導時間の制限から、教師が知識として一方的に教えたり、反復練習をして覚えるような学習になる場合も当然あります。しかし、一方的に話を聞くだけの授業や、ひたすら反復練習やプリントの問題を解くだけの授業ばかりでは、深い学びにはつながりません。

学校生活の大半を占めるのが授業です。授業の質を上げることが、子どもたちの学校生活を充実させるキーポイントです。今後も、研究主任を中心として研修を進め、子どもの学びが深まる授業づくりを目指します。

